

(様式6)

砂賀 道子氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Development and Validation of the Breast Cancer Survivors Resilience Scale
(乳がんサバイバーのレジリエンス尺度の開発と信頼性・妥当性の検討)
The KITAKANTO Medical Journal 68(1), 2018 (in press)
Michiko Sunaga, Tamae Futawatari

論文の要旨及び判定理由

乳がん患者は不適応・抑うつ状態に陥る患者が多くみられる。そのため早期の心理・社会的なスクリーニングを行う必要性が高い。本研究の目的は乳がんサバイバーのレジリエンス尺度（BCRS）の開発と信頼性・妥当性を検討することであった。方法は混合法により尺度開発の手順に従い実施した。レジリエンスの概念分析・促進要素からエキスパートオピニオンや予備調査を経て64項目からなるBCRS修正版を作成した。2施設において乳がんと診断され手術を受けた65歳以下の者を対象にBCRS・MAC・SF-8TMなどの質問票調査を実施した。本調査230名、再テスト37名の有効回答を分析した。項目分析、IT相関分析、探索的因子分析を行い16項目2因子構成の尺度が完成した。尺度全体のクロンバック α 0.88と高い信頼性が認められた。また確証的因子分析GFI0.914、AGFI0.885 CFI 0.947などモデルの適合性が確認できた。BCRSとMACおよびFSは弱い相関を認め基準関連妥当性・弁別的妥当性や再テスト α 0.891であり妥当性・信頼性が確保された尺度が完成した。

以上、乳がんサバイバーのレジリエンスを測定できる独創性の高い尺度が開発され、博士（保健学）の学位に値するものと判定した。
(平成30年2月15日)

審査委員

主査	群馬大学大学院教授 看護学講座	神田 清子	印
副査	群馬大学大学院教授 生体情報検査科学講座	林 邦彦	印
	群馬大学大学院教授 看護学講座	大山 良雄	印

参考論文

1. 乳がんサバイバーのレジリエンスを促進する要素
日本がん看護学会誌28(1):11-20, 2014.
砂賀 道子、二渡 玉江